

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	単位型投信／海外／債券	
信託期間	約5年3カ月間 (2016年6月20日～2021年9月10日)	
運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。	
主要投資対象	ベビーファンド	ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06の受益証券
	ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
ベビーファンドの運用方法	<p>①主として、マザーファンドの受益証券を通じて、日系企業が発行する外債建ての社債等（劣後債を除きます。以下同じ。）に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。</p> <p>※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。</p> <p>※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②マザーファンドの受益証券の組入比率は、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。</p> <p>③保有実質外貨建資産については、(為替ヘッジあり)においては為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。(為替ヘッジなし)においては為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。(部分為替ヘッジあり)においては為替ヘッジを行なうことにより、当ファンドの実質的な円貨比率を70%に近づけることをめざします。</p> <p>※保有実質外貨建資産とは、当ファンドが保有する外貨建資産およびマザーファンドが保有する外貨建資産のうち当ファンドに属するとみなした外貨建資産をいいます。</p>	
	マザーファンドの運用方法	<p>①運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。</p> <p>※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてA格相当以上(R&I、JCR、S&P、フィッチのいずれかでA-以上またはムーディーズでA3以上)とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3(年)以内とすることをめざします。</p> <p>②為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
組入制限	ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率	無制限
	マザーファンドの株式組入上限比率	純資産総額の10%以下
分配方針	<p>分配対象額は、元本超過額または経費控除後の配当等収益のうちいずれか多い額とし、原則として、経費控除後の配当等収益の中から分配することをめざします。ただし、基準価額の水準等を勘案し、元本超過額も含めて分配を行なうことがあります。なお、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないことがあります。</p>	

当ファンドは、ファミリーファンド方式で運用を行ないます。ファミリーファンド方式とは、受益者からの資金をまとめてベビーファンド(当ファンド)とし、その資金を主としてマザーファンドの受益証券に投資して、実質的な運用をマザーファンドで行なう仕組みです。

ダイワ高格付日本企業外債ファンド (為替ヘッジあり／為替ヘッジなし／ 部分為替ヘッジあり) 2016-06

運用報告書(全体版) 第2期

(決算日 2017年3月10日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「ダイワ高格付日本企業外債ファンド(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし／部分為替ヘッジあり) 2016-06」は、このたび、第2期の決算を行ないました。

ここに、期中の運用状況をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

お問い合わせ先 (コールセンター)

TEL 0120-106212

(営業日の9:00～17:00)

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

<3611>

<3612>

<3613>

為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定(2016年6月20日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末(2016年9月12日)	9,989	30	19	0.2	0.8	91.7	—	98.9
2期末(2017年3月10日)	9,576	40	△ 373	△ 3.7	△ 4.9	94.7	—	98.9

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

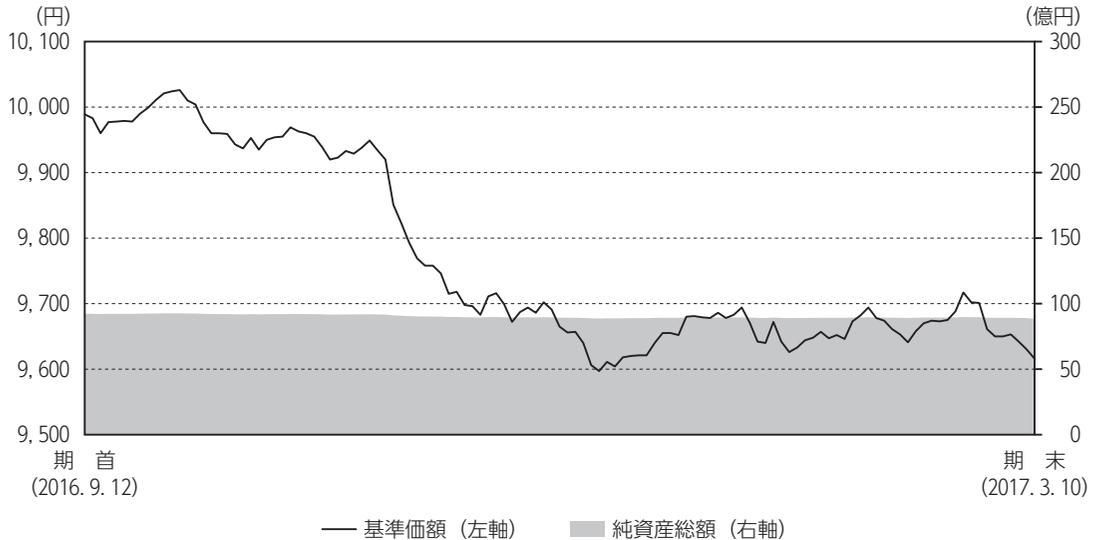
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：9,989円

期末：9,576円（分配金40円）

騰落率：△3.7%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行なった結果、保有債券からの利息収入はプラス要因となりましたが、社債金利の上昇（債券価格の下落）などを反映し、基準価額は下落しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ高格付日本企業外債ファンド（為替ヘッジあり）2016-06

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首) 2016年 9月12日	円	9,989	—	91.7	—
9 月末		10,026	0.4	90.3	—
10月末		9,923	△ 0.7	93.6	—
11月末		9,716	△ 2.7	100.0	—
12月末		9,655	△ 3.3	95.4	—
2017年 1 月末		9,648	△ 3.4	93.2	—
2 月末		9,702	△ 2.9	92.2	—
(期末) 2017年 3月10日		9,616	△ 3.7	94.7	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

■海外債券市況

米国債券市況は、欧米の景況感の改善を示す経済指標やインフレ期待の上昇などを背景に、米国の利上げ観測やE C B（欧州中央銀行）による量的緩和の減額への懸念が広がり、国債金利が上昇基調となりました。また、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの経済政策に対する期待が高まったことで、国債金利は2016年末にかけて上昇ペースを速めました。2017年に入ってから、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、国債金利の上昇に一服感が広がりました。

こうした環境下、米ドルなど外貨建ての社債についても金利が上昇しました。ただし、発行体信用力に目立った悪化は見られず、相対的に高い利回りを求める投資需要にも支援され、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は縮小しました。

前期における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

ポートフォリオについて

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないました。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は40円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が92,317,539円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益92,317,539円（1万口当り99.92円）を分配対象額として、うち36,954,093円（1万口当り40円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行いません。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016. 9. 13~2017. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	26円	0. 265%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9,766円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0. 159)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0. 093)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	27	0. 274	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月13日から2017年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-06	—	—	1,240,389	1,304,300

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	口 数	評 価 額	口 数	評 価 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	9,306,576	8,066,187	8,669,538	8,669,538

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	8,669,538	97.2
コール・ローン等、その他	252,792	2.8
投資信託財産総額	8,922,330	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝115.22円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06において、当期末における外貨建純資産(9,130,433千円)の投資信託財産総額(9,308,586千円)に対する比率は、98.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	17,448,252,961円
コール・ローン等	252,792,327
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06 (評価額)	8,669,538,034
未収入金	8,525,922,600
(B) 負債	8,601,813,284
未払金	8,540,597,000
未払収益分配金	36,954,093
未払信託報酬	23,903,730
その他未払費用	358,461
(C) 純資産総額 (A - B)	8,846,439,677
元本	9,238,523,262
次期繰越損益金	△ 392,083,585
(D) 受益権総口数	9,238,523,262口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,576円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,576円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は392,083,585円です。

■損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 81,535円
支払利息	△ 81,535
(B) 有価証券売買損益	△ 1,050,689,464
売買益	215,770,126
売買損	△ 1,266,459,590
(C) 有価証券評価差損益	729,693,466
(D) 信託報酬等	△ 24,262,191
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	△ 345,339,724
(F) 前期繰越損益金	△ 9,789,768
(G) 合計 (E + F)	△ 355,129,492
(H) 収益分配金	△ 36,954,093
次期繰越損益金 (G + H)	△ 392,083,585

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は5ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	40円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

為替ヘッジなし

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定(2016年6月20日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末(2016年9月12日)	9,822	30	△ 148	△ 1.5	△ 6.4	91.6	—	100.0
2期末(2017年3月10日)	10,600	70	848	8.6	9.7	96.1	—	100.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

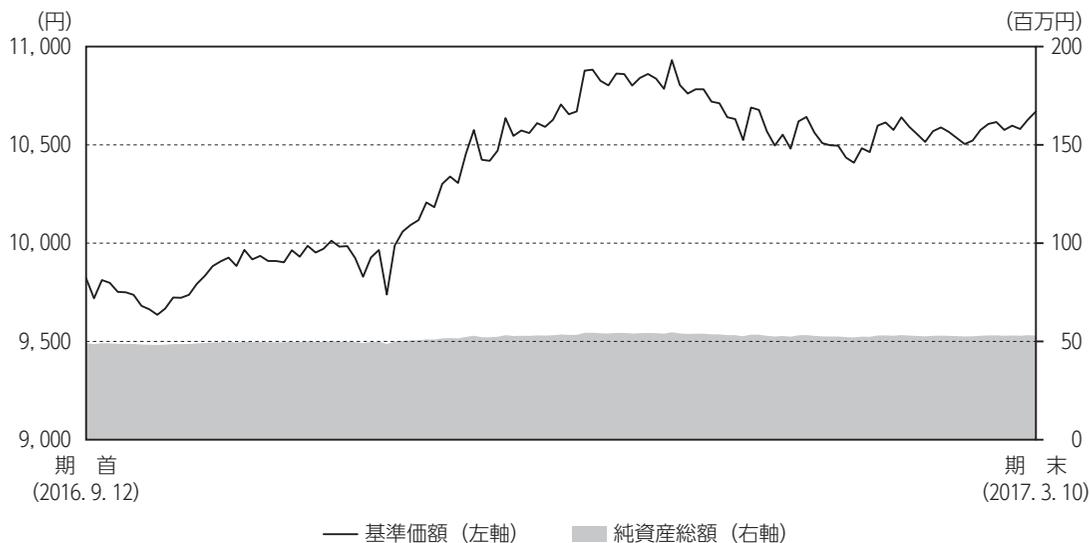
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：9,822円

期末：10,600円（分配金70円）

騰落率：8.6%（分配金込み）

■ 基準価額の主な変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、社債金利の上昇（債券価格の下落）はマイナス要因となりましたが、保有債券からの利息収入や円安米ドル高などを反映し、基準価額は上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比 率	債 先 物 比 率
		騰 落 率			
(期首) 2016年 9月12日	円	9,822	—	%	%
9 月末		9,722	△ 1.0	91.6	—
10月末		9,982	1.6	91.5	—
11月末		10,471	6.6	91.4	—
12月末		10,785	9.8	98.3	—
2017年 1 月末		10,563	7.5	96.0	—
2 月末		10,522	7.1	96.5	—
(期末) 2017年 3月10日		10,670	8.6	96.4	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

■海外債券市況

米国債券市況は、欧米の景況感の改善を示す経済指標やインフレ期待の上昇などを背景に、米国の利上げ観測やE C B（欧州中央銀行）による量的緩和の減額への懸念が広がり、国債金利が上昇基調となりました。また、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの経済政策に対する期待が高まったことで、国債金利は2016年末にかけて上昇ペースを速めました。2017年に入ってから、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、国債金利の上昇に一服感が広がりました。

こうした環境下、米ドルなど外貨建ての社債についても金利が上昇しました。ただし、発行体信用力に目立った悪化は見られず、相対的に高い利回りを求める投資需要にも支援され、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は縮小しました。

■為替相場

米国の利上げ観測が広がったほか、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの政策への期待が高まったこともあり、米ドルは期首から2016年末にかけて対円で上昇しました。しかしその後は、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、米ドルの動きにも一服感が広がりました。

前期における「今後の運用方針」

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れます。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

ポートフォリオについて

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れました。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は70円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における純資産額の元本超過額3,347,519円が、経費控除後の配当等収益542,154円を超過しているため、純資産額の元本超過額3,347,519円（1万口当り669.50円）を分配対象額として、うち350,000円（1万口当り70円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れます。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016. 9. 13~2017. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	27円	0. 265%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は10, 348円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0. 159)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(10)	(0. 093)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	28	0. 274	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月13日から2017年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	□ 数	金 額	□ 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-06	—	—	440	470

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	当 期 末		
	□ 数	□ 数	評 価 額
	千口	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	49,500	49,059	52,729

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	52,729	98.6
コール・ローン等、その他	756	1.4
投資信託財産総額	53,486	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝115.22円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06において、当期末における外貨建純資産(9,130,433千円)の投資信託財産総額(9,308,586千円)に対する比率は、98.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	53,486,383円
コール・ローン等	756,999
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06 (評価額)	52,729,384
(B) 負債	488,864
未払収益分配金	350,000
未払信託報酬	136,918
その他未払費用	1,946
(C) 純資産総額 (A - B)	52,997,519
元本	50,000,000
次期繰越損益金	2,997,519
(D) 受益権総口数	50,000,000口
1万口当り基準価額 (C / D)	10,600円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,600円です。

■損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年3月10日

項 目	当 期
(A) 有価証券売買損益	29,718円
売買益	29,718
(B) 有価証券評価差損益	4,347,816
(C) 信託報酬等	△ 138,864
(D) 当期損益金 (A + B + C)	4,238,670
(E) 前期繰越損益金	△ 891,151
(F) 合計 (D + E)	3,347,519
(G) 収益分配金	△ 350,000
次期繰越損益金 (F + G)	2,997,519

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注3) 収益分配金の計算過程は14ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	70円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

部分為替ヘッジあり

設定以来の運用実績

決算期	基準価額				受益者 利回り	公社債 組入比率	債券 先物比率	元本 残存率
	(分配落)	税込み 分配金	期中 騰落額	期中 騰落率				
設定(2016年6月20日)	円 10,000	円 —	円 —	% —	% —	% —	% —	% 100.0
1期末(2016年9月12日)	9,939	30	△ 31	△ 0.3	△ 1.3	91.0	—	100.0
2期末(2017年3月10日)	9,887	60	8	0.1	△ 0.3	95.5	—	100.0

(注1) 基準価額の騰落額および騰落率は分配金込み。

(注2) 公社債および債券先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注3) 公社債組入比率は新株予約権付社債券（転換社債券）を除きます。

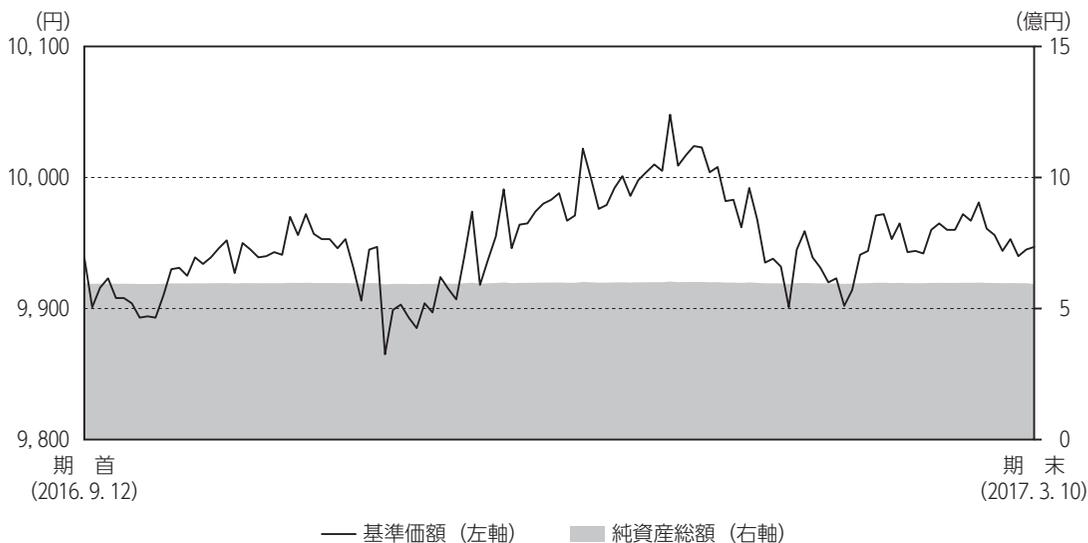
(注4) 債券先物比率は買建比率－売建比率です。

(注5) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。



運用経過

基準価額等の推移について



(注) 期末の基準価額は分配金込みです。

■ 基準価額・騰落率

期首：9,939円

期末：9,887円（分配金60円）

騰落率：0.1%（分配金込み）

■ 基準価額の変動要因

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を通じて、主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資し、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行なった結果、社債金利の上昇（債券価格の下落）はマイナス要因となりましたが、保有債券からの利息収入や円安米ドル高などを反映し、基準価額は小幅ながら上昇しました。くわしくは「投資環境について」をご参照ください。

ダイワ高格付日本企業外債ファンド（部分為替ヘッジあり）2016-06

年 月 日	基 準	価 額		公 社 債 率 組 入 比	債 先 物 比 券 率
		騰 落 率			
(期首) 2016年 9月12日	円	9,939	—	91.0	—
9 月末		9,931	△ 0.1	90.0	—
10月末		9,946	0.1	92.2	—
11月末		9,955	0.2	98.5	—
12月末		10,005	0.7	95.5	—
2017年 1 月末		9,939	0.0	94.2	—
2 月末		9,967	0.3	93.4	—
(期末) 2017年 3月10日		9,947	0.1	95.5	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比。

投資環境について

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

海外債券市況

米国債券市況は、欧米の景況感の改善を示す経済指標やインフレ期待の上昇などを背景に、米国の利上げ観測やE C B（欧州中央銀行）による量的緩和の減額への懸念が広がり、国債金利が上昇基調となりました。また、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの経済政策に対する期待が高まったことで、国債金利は2016年末にかけて上昇ペースを速めました。2017年に入ってから、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、国債金利の上昇に一服感が広がりました。

こうした環境下、米ドルなど外貨建ての社債についても金利が上昇しました。ただし、発行体信用力に目立った悪化は見られず、相対的に高い利回りを求める投資需要にも支援され、スプレッド（国債に対する上乗せ金利）は縮小しました。

為替相場

米国の利上げ観測が広がったほか、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの政策への期待が高まったこともあり、米ドルは期首から2016年末にかけて対円で上昇しました。しかしその後は、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、米ドルの動きにも一服感が広がりました。

前期における「今後の運用方針」**当ファンド**

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行いません。

ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

ポートフォリオについて

(2016. 9. 13 ~ 2017. 3. 10)

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないました。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

分配金について

当期の1万口当り分配金（税込み）は60円といたしました。

なお、留保益につきましては、運用方針に基づき運用させていただきます。

■収益分配金の計算過程

計算期間末における経費控除後の配当等収益が6,124,517円であり、純資産額の元本超過額がないため、経費控除後の配当等収益6,124,517円（1万口当り102.07円）を分配対象額として、うち3,600,000円（1万口当り60円）を分配金額としております。



今後の運用方針

■当ファンド

「ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06」の受益証券を高位に組み入れるとともに、為替変動リスクを低減するため、部分為替ヘッジを行ないます。

■ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

主として日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

1万口当りの費用の明細

項 目	当 期 (2016. 9. 13~2017. 3. 10)		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
信 託 報 酬	26円	0. 265%	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 期中の平均基準価額は9, 950円です。
(投 信 会 社)	(16)	(0. 159)	投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託銀行への運用指図、基準価額の計算、目論見書・運用報告書の作成等の対価
(販 売 会 社)	(9)	(0. 093)	販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受 託 銀 行)	(1)	(0. 013)	受託銀行分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
売 買 委 託 手 数 料	—	—	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権総口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
有 価 証 券 取 引 税	—	—	有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
そ の 他 費 用	1	0. 010	その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(1)	(0. 006)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(0)	(0. 004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	27	0. 274	

(注1) 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

(注2) 金額欄は各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注3) 比率欄は1万口当りのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2016年9月13日から2017年3月10日まで)

	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
	千口	千円	千口	千円
ダイワ高格付 日本企業外債 マザーファンド2016-06	—	—	51,260	54,000

(注) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況

当期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

親投資信託残高

種 類	期 首		当 期 末	
	口 数	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千口	千円
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	596,680	545,420	586,217	586,217

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06	586,217	97.9
コール・ローン等、その他	12,788	2.1
投資信託財産総額	599,006	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル=115.22円です。

(注3) ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06において、当期末における外貨建純資産(9,130,433千円)の投資信託財産総額(9,308,586千円)に対する比率は、98.1%です。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	996,927,011円
コール・ローン等	12,788,375
ダイワ高格付日本企業外債 マザーファンド2016-06 (評価額)	586,217,876
未収入金	397,920,760
(B) 負債	403,727,725
未払金	398,522,800
未払収益分配金	3,600,000
未払信託報酬	1,581,296
その他未払費用	23,629
(C) 純資産総額 (A - B)	593,199,286
元本	600,000,000
次期繰越損益金	△ 6,800,714
(D) 受益権総口数	600,000,000口
1万口当り基準価額 (C / D)	9,887円

* 当期末の計算口数当りの純資産額は9,887円です。

* 当期末の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は6,800,714円です。

■損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	△ 4,400円
支払利息	△ 4,400
(B) 有価証券売買損益	△ 46,864,711
売買益	9,434,077
売買損	△ 56,298,788
(C) 有価証券評価差損益	48,956,078
(D) 信託報酬等	△ 1,604,925
(E) 当期損益金 (A + B + C + D)	482,042
(F) 前期繰越損益金	△ 3,682,756
(G) 合計 (E + F)	△ 3,200,714
(H) 収益分配金	△ 3,600,000
次期繰越損益金 (G + H)	△ 6,800,714

(注1) 有価証券評価差損益は、有価証券の期末の評価損益と期首との差額です。

(注2) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示していません。

(注3) 収益分配金の計算過程は23ページをご参照ください。

収 益 分 配 金 の お 知 ら せ	
1 万 口 当 り 分 配 金 (税 込 み)	60円

分配金の課税上の取扱いについて

- ・分配金については、20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）の税率による源泉徴収が行なわれ、申告不要制度が適用されます。なお、確定申告を行ない、申告分離課税または総合課税（配当控除の適用はありません。）を選択することもできます。
- ・法人の受益者の場合、税率が異なります。
- ・税法が改正された場合等には、上記の内容が変更になることがあります。くわしくは、販売会社にお問い合わせください。
- ・課税上の取扱いの詳細につきましては、税務専門家等にご確認されることをお勧めします。

ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

運用報告書 第2期 (決算日 2017年3月10日)

(計算期間 2016年9月13日～2017年3月10日)

ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06の第2期にかかる運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等
運用方法	<p>①主として、日系企業が発行する外貨建ての社債等（劣後債を除きます。以下同じ。）に投資することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざして運用を行ないます。 ※日系企業とは、日本企業もしくはその子会社をいいます。 ※社債等には、日本の政府機関、地方公共団体等が発行する債券を含みます。</p> <p>②運用にあたっては、以下の点に留意します。</p> <p>イ. 投資対象は、主として日系企業が発行する米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての社債等とします。 ※必ずしも、上記通貨のすべてが組み入れられるわけではありません。</p> <p>ロ. 流動性の確保およびポートフォリオの修正デュレーションの調整のため、米ドル、ユーロおよび豪ドル建ての海外の国債やコマーシャル・ペーパー等に投資することがあります。</p> <p>ハ. 債券の格付けは、取得時においてA格相当以上（R&I、JCR、S&P、フィッチのいずれかでA-以上またはムーディーズでA3以上）とします。</p> <p>ニ. ポートフォリオの修正デュレーションは、当ファンドの残存年数+0.3（年）以内とすることをめざします。</p> <p>③為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。</p>
株式組入制限	純資産総額の10%以下

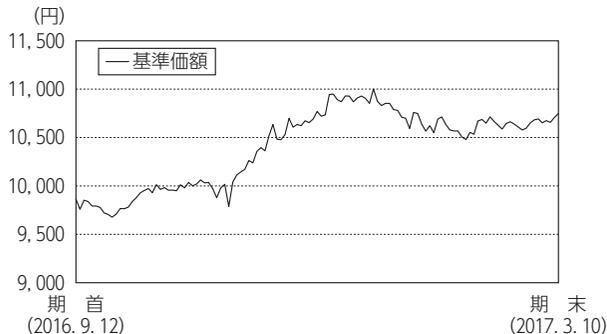
大和投資信託

Daiwa Asset Management

東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<http://www.daiwa-am.co.jp/>

■当期中の基準価額の推移



年 月 日	基 準 価 額		公 社 債 組入比率	債 券 先物比率
	円	%		
(期首) 2016年 9月12日	9,863	—	92.2	—
9月末	9,765	△ 1.0	92.0	—
10月末	10,032	1.7	91.9	—
11月末	10,531	6.8	98.7	—
12月末	10,853	10.0	96.4	—
2017年 1月末	10,634	7.8	96.9	—
2月末	10,597	7.4	96.7	—
(期末) 2017年 3月10日	10,748	9.0	96.6	—

(注1) 騰落率は期首比。
 (注2) 公社債組入比率は新株予約権付社債券(転換社債券)を除きます。
 (注3) 債券先物比率は買建比率-売建比率です。
 (注4) 当ファンドは、ファンドの運用方針に対して適切な比較指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を記載しておりません。

《運用経過》

◆基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

期首：9,863円 期末：10,748円 騰落率：9.0%

【基準価額の主な変動要因】

主として日系企業が発行する米ドル建ての社債に投資した結果、社債金利の上昇(債券価格の下落)はマイナス要因となりましたが、保有債券からの利息収入や円安米ドル高などを反映し、基準価額は上昇しました。

◆投資環境について

○海外債券市場

米国債券市場は、欧米の景況感の改善を示す経済指標やインフレ期待の上昇などを背景に、米国の利上げ観測やECB(欧州中央銀行)による量的緩和の減額への懸念が広がり、国債金利が上昇基調となりました。また、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの経済政策に対する期待が高まったことで、国債金利は2016年末にかけて上昇ペースを速めました。2017年に入ってから、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、国債金利の上昇に一服感が広がりました。

こうした環境下、米ドルなど外貨建ての社債についても金利が上昇しました。ただし、発行体信用力に目立った悪化は見られず、相対的に高い利回りを求める投資需要にも支援され、スプレッド(国債に対する上乗せ金利)は縮小しました。

○為替相場

米国の利上げ観測が広がったほか、米国大統領選挙の結果を受け、新政権による財政拡大などの政策への期待が高まったこともあり、米ドルは期首から2016年末にかけて対円で上昇しました。しかしその後は、政策の実現性や利上げ時期を見極める流れの中で、米ドルの動きにも一服感が広がりました。

◆前期における「今後の運用方針」

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、金融セクターを中心としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

◆ポートフォリオについて

主として日系企業が発行する米ドル建ての債券に投資し、流動性や利回り面で投資妙味のある金融セクターを軸とするポートフォリオを維持しました。

◆ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークおよび参考指数を設けておりません。

《今後の運用方針》

主として日系企業が発行する米ドル建て債券に投資し、金融セクターを軸としたポートフォリオを維持することにより、安定した収益の確保と信託財産の着実な成長をめざす方針です。

■1万口当りの費用の明細

項 目	当 期
売買委託手数料	—円
有価証券取引税	—
その他費用 (保管費用)	1 (1)
合 計	1

(注1) 期中の費用(消費税のかかるものは消費税を含む)は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。費用の項目および算出法については前掲の「1万口当りの費用の明細」の項目の概要をご参照ください。

(注2) 各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■売買および取引の状況

公 社 債

(2016年9月13日から2017年3月10日まで)

		買付額	売付額
		千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル
外 国	アメリカ	—	4,563 (—)
		—	2,016 (—)

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) ()内は償還による減少分、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 社債券には新株予約権付社債券(転換社債券)は含まれておりません。

(注4) 単位未満は切捨て。

■主要な売買銘柄

公 社 債

(2016年9月13日から2017年3月10日まで)

当 期		期	
買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
		JAPAN BANK FOR INTL. COOP. (日本) 3% 2024/5/29	298,097
		AMERICAN HONDA FINANCE (アメリカ) 2.25% 2019/8/15	234,878
		Development Bank of Japan (日本) 2.75% 2025/9/16	233,445

(注1) 金額は受渡し代金(経過利子分は含まれておりません)。

(注2) 単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

(1)外国(外貨建)公社債(通貨別)

区 分	額 面 金 額	当 期		組入比率	うちBB格 以下組入 率	残存期間別組入比率		
		評 価 額				5年以上	2年以上	2年未満
		外 貨 建 金 額	邦貨換算金額					
	千アメリカ・ドル	千アメリカ・ドル	千円	%	%	%	%	%
アメリカ	78,800	78,041	8,991,957	96.6	—	36.7	49.1	10.8

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合。

(注3) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

(注4) 評価額および格付情報については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

ダイワ高格付日本企業外債マザーファンド2016-06

(2)外国 (外貨建) 公社債 (銘柄別)

区 分	銘 柄	種 類	年 利 率	額 面 金 額	評 価 額		償 還 年 月 日
					外 貨 建 金 額		
					千アメリカ・ドル	千円	
アメリカ	Tokyo Metropolitan Government	地方債証券	2.1250	1,000	995	114,721	2019/05/20
	Tokyo Metropolitan Government	地方債証券	2.1250	1,000	987	113,814	2020/05/19
	JAPAN BANK FOR INTL. COOP.	特殊債券	2.1250	2,500	2,353	271,152	2025/02/10
	JAPAN BANK FOR INTL. COOP.	特殊債券	3.0000	1,500	1,508	173,847	2024/05/29
	JAPAN FIN. CORP. MUNI. ENT.	特殊債券	2.1250	6,500	6,339	730,446	2021/04/13
	Development Bank of Japan	特殊債券	1.6250	4,800	4,720	543,897	2019/09/25
	Sumitomo Mitsui Banking Corp	社 債 券	2.4500	1,700	1,696	195,456	2020/01/16
	Chiba Bank Ltd/The	社 債 券	2.7500	2,000	1,994	229,810	2020/07/29
	Toyota Motor Credit Corp	社 債 券	1.4000	1,500	1,483	170,972	2019/05/20
	UnionBanCal Corp	社 債 券	3.5000	1,000	1,018	117,295	2022/06/18
	Mizuho Financial Group Inc	社 債 券	2.6320	1,800	1,771	204,085	2021/04/12
	Mizuho Financial Group Inc	社 債 券	3.4770	5,000	4,913	566,081	2026/04/12
	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	社 債 券	3.8500	5,000	5,061	583,232	2026/03/01
	Mitsubishi UFJ Financial Group Inc	社 債 券	2.9500	1,700	1,702	196,111	2021/03/01
	Sumitomo Mitsui Financial Group Inc	社 債 券	3.7840	5,000	5,026	579,153	2026/03/09
	Sumitomo Mitsui Trust Bank Ltd	社 債 券	1.8000	1,000	999	115,105	2018/03/28
	Sumitomo Mitsui Trust Bank Ltd	社 債 券	2.9500	5,500	5,562	640,908	2018/09/14
	Japan Tobacco Inc	社 債 券	2.0000	1,700	1,656	190,836	2021/04/13
	Japan Tobacco Inc	社 債 券	2.8000	5,000	4,821	555,533	2026/04/13
	ORIX Corp	社 債 券	2.6500	6,800	6,686	770,450	2021/04/13
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.1700	800	795	91,699	2019/08/05
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.2930	4,000	3,915	451,183	2021/04/23
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.3620	1,000	978	112,761	2021/05/28
	Central Nippon Expressway Co Ltd	社 債 券	2.2410	1,000	974	112,278	2021/02/16
	AMERICAN HONDA FINANCE	社 債 券	7.6250	2,000	2,176	250,801	2018/10/01
	Toyota Motor Credit Corp	社 債 券	2.6250	5,000	4,926	567,625	2023/01/10
	Mitsubishi UFJ Lease&Finance Co Ltd	社 債 券	2.5000	3,000	2,974	342,694	2020/03/09
合 計	銘柄数	27銘柄					
	金 額			78,800	78,041	8,991,957	

(注1) 邦貨換算金額は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。

(注2) 額面金額、評価額の単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
公社債	8,991,957 千円	96.6 %
コール・ローン等、その他	316,629	3.4
投資信託財産総額	9,308,586	100.0

(注1) 評価額の単位未満は切捨て。

(注2) 外貨建資産は、期末の時価を対顧客直物電信売買相場の仲値をもとに投資信託協会が定める計算方法により算出されるレートで邦貨換算したものです。なお、3月10日における邦貨換算レートは、1アメリカ・ドル＝115.22円です。

(注3) 当期末における外貨建純資産(9,130,433千円)の投資信託財産総額(9,308,586千円)に対する比率は、98.1%です。

■損益の状況

当期 自2016年9月13日 至2017年3月10日

項 目	当 期
(A) 配当等収益	129,833,855円
受取利息	129,896,506
支払利息	△ 62,651
(B) 有価証券売買損益	721,610,515
売買益	1,128,942,596
売買損	△ 407,332,081
(C) その他費用	△ 554,600
(D) 当期損益金 (A + B + C)	850,889,770
(E) 前期繰越損益金	△ 136,289,996
(F) 解約差損益金	△ 66,680,177
(G) 合計 (D + E + F)	647,919,597
次期繰越損益金 (G)	647,919,597

(注) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2017年3月10日現在

項 目	当 期 末
(A) 資産	9,308,586,973円
コール・ローン等	236,815,990
公社債(評価額)	8,991,957,760
未収利息	77,481,052
前払費用	2,332,171
(B) 負債	—
(C) 純資産総額 (A - B)	9,308,586,973
元本	8,660,667,376
次期繰越損益金	647,919,597
(D) 受益権総口数	8,660,667,376口
1万口当り基準価額 (C / D)	10,748円

* 期首における元本額は9,952,757,199円、当期中における追加設定元本額は0円、同解約元本額は1,292,089,823円です。

* 当期末における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額は、ダイワ高格付日本企業外債ファンド(為替ヘッジあり)2016-06 8,066,187,230円、ダイワ高格付日本企業外債ファンド(為替ヘッジなし)2016-06 49,059,718円、ダイワ高格付日本企業外債ファンド(部分為替ヘッジあり)2016-06 545,420,428円です。

* 当期末の計算口数当りの純資産額は10,748円です。